

要 旨

試験委託者 環境省

表 題 2, 5-ジメチルアニリンのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する
繁殖試験

試験番号 No. 2007-生73

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドラインNo. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)に従って実施した。

- | | | |
|--------------|---|--|
| 1) 被験物質 | : | 2, 5-ジメチルアニリン |
| 2) 暴露方式 | : | 半止水式〔週 3 回(月、水、金曜日)に試験溶液の全量を交換〕 |
| 3) 供試生物 | : | オオミジンコ (<i>Daphnia magna</i>) |
| 4) 暴露期間 | : | 21日間 |
| 5) 試験濃度(設定値) | : | 対照区, 0.046, 0.10, 0.22, 0.46, 1.0, 2.2, 4.6 mg/L
公比 ; 2.2 |
| 6) 試験溶液量 | : | 80 mL/容器 |
| 7) 連数 | : | 10 容器/試験区 |
| 8) 供試生物数 | : | 10 頭/試験区 (1 頭/容器) |
| 9) 試験温度 | : | 20±1 ℃ |
| 10) 照明 | : | 室内光、16 時間明/8 時間暗 |
| 11) pH | : | 試験溶液の pH 調整は行わなかった |
| 12) 分析法 | : | HPLC 法 |

結 果

1) 試験溶液中の被験物質濃度

暴露期間中の被験物質濃度の軽微な変動は、エサへの吸着による減少が原因と考えられたことから、各影響濃度の算出にあたっては、各測定値の時間加重平均値〔暴露期間中に3回（換水前後で計6回）の頻度で測定し、各換水前後の測定値の対数平均を算出し、それらの算術平均値〕を採用した。

2) 21日間暴露の各影響濃度結果を以下に示す。

親ミジンコの50%死亡濃度(LC₅₀) : > 4.5 mg/L

50%繁殖阻害濃度(EC₅₀) : 2.6 mg/L(95%信頼限界: 2.1 ~ 3.3 mg/L), Logit

累積産仔数におよぼす最大無作用濃度(NOEC) : 0.096 mg/L

累積産仔数におよぼす最小作用濃度(LOEC) : 0.21 mg/L